

英国のユーロ参加問題 ～最も重要なテストは世論～

ロンドン・センター

ジェトロ・ロンドンは、英国のユーロ参加問題に関し、王立国際問題研究所（チャタムハウス）の準研究員で、ロンドン大学LSE（London School of Economics and Political Science：政治経済学院）の客員教授なども務めるイアン・ベッグ氏にインタビューを実施した。以下、その要旨を報告する（インタビュー日；2003年1月31日）。

1．英国とEU間の難しい関係

英国人のEU観は肯定的なものばかりではなく、従来から英国とEUの関係は難しいものだった。英国は90年に遅ればせながら、ERM（為替相場メカニズム）に参加したが、92年の通貨危機を契機に離脱を余儀なくされている。それに前後して、英国はマーストリヒト条約の通貨統合の条項を適用除外している。しかし一方で、英国は常に単一市場実現に熱心だった。ユーロ参加の是非は英国では、経済的計算に基づいて決定されるべきだと考えられている。ユーロ参加推進派が、参加でもたらされる経済的恩恵を声高に唱えるのも、財務省が「5項目の経済テスト」を採用したのも、このためである。

ユーロ参加にあたって「5項目の経済テスト」を基準にしているのは、英国一国のみで

ある。最近の世界的な経済低迷の中、英国経済はユーロ圏の多くの国々より好調なため、英国には経済通貨同盟（EMU）への参加は必要ない、英国経済はEMUなしで順調にやっていると見方が強まっている。

2．ユーロ参加賛成・反対の経済的理由

ユーロ参加賛成派の経済的理由の主なものは以下のとおりである。

- ・ EMUは売買コストを引き下げ、単一市場の実現を助ける。
- ・ 外国から英国への直接投資を促進する。
- ・ EUの意思決定過程を英国がリードできるようになる。
- ・ EU加盟国経済の一層の統合につながる。
- ・ 長期的にみるとインフレ率が下がることが期待される。

反対派が掲げる主な理由は、以下のように整理できる。

- ・ 英国経済はユーロ圏経済と非常に異なっており、ユーロ圏の画一的な経済政策は、英国経済にリスクをもたらす。
- ・ 英国の自主性が失われる。
- ・ 英国のマクロ経済政策は、ユーロ圏のそれより有効である。
- ・ ユーロ圏、特にドイツに構造的問題がある。

3.5 項目の経済テスト

5項目の経済テストとは、以下を指す。

- (1) 英国とユーロ圏の経済周期の持続的収れん
- (2) ユーロ参加に伴う経済的ショックに適応できるだけの英国経済の柔軟性
- (3) 投資への影響
- (4) 英国の金融業（シティ）への影響
- (5) 雇用および経済成長に対する全体的影響

ユーロ参加を国民に勧告するにあたっては、この5つの条件を「はっきりと、あいまいなところを残さず」満たさなければならない。2002年12月5日付けのデイリー・テレグラフ紙によれば、実際には6番目の基準が存在するという。「6番目の基準は、英国経済が収れんしているかどうかではなく、最も重要な疑問である『ユーロに参加したいかどうか』である」。ここに世論の重要性を見て取ることができるだろう。

テスト1～英国とユーロ圏の経済周期の持続的収れん

90年代初頭、英国とユーロ圏の経済周期は大きく異なっていたが、90年代半ばから現在までは、収れんの方向に戻っている。金融政策についても両経済圏の間には同じような傾向が見られ、2002年12月5日に欧州中央銀行（ECB）が13カ月ぶりに利下げすると、イン

グランド銀行（英中銀）も2003年2月に15カ月ぶりに利下げを行った。問題は、このような収れんがこの先も続くかどうかという点である。

テスト2～ユーロ参加に伴う経済的ショックに適応できるだけの英国経済の柔軟性
英国の労働市場はより柔軟になっており、全体的に見て、英国経済はユーロ参加に伴う経済的ショックにも適応能力があると見られている。

テスト3～投資への影響

ユーロ参加により、マクロ経済が安定すれば、数々の恩恵があると見られている。英国への海外からの直接投資は現在も好調だが、ユーロに参加しない場合、特に長期的に見ると、直接投資に悪影響が出る可能性がある。

テスト4～英国の金融業（シティ）への影響

シティをはじめとする金融業に関しては、ユーロ参加に関わりなく、世界有数の金融センターとしての地位を維持できると見られている。しかし、シティの現在の地位をさらに強化するには、ユーロ圏外にいるよりは圏内にいる方が有利であろう。

テスト5～雇用および経済成長に対する全体的影響

この項目は、実質的に「5項目の経済テスト」の初めの4項目のまとめである。これらのテストは、ユーロ参加の是非の基準としては役に立つが、長期的な利益を保証するものではない。

「5項目の経済テスト」は97年10月に作成された。当時は、特に経済周期の収れんに関して、条件は満たされていないと考えられて

いた。しかし、このテストは解釈次第でどのようにも結論づけられる。その証拠に、英国経済の柔軟性を明確に示す具体的データなどは存在しない。いずれにせよ、政府は、2003年6月までに同テストの結果を発表すると公約している。

テスト結果は、国民投票の結果を左右することになる。現在のところ、国民のユーロに関する議論は非常に浅いが、テスト結果が発表されれば、議論が白熱し、国民の意識も高まろう。もし条件を満たせば、政府は国民投票を行わなければならないが、重要なのは、第1、第2、第5項目のテストである。

もしテスト条件を満たさないと見られれば、ユーロ導入は3～5年は遅れるだろう。また、国民投票で否決されれば、ユーロ導入は不定期に遅れるだろう。英国が将来的にもユーロに参加しない確率は低いが、もし国民投票で否決され、ユーロ導入が不定期に遅れると、最終的には英国のEU脱退といった大きな変化につながる可能性もあるだろう。

4．為替レート

現在の為替レートは、1ポンド1.51ユーロまでに落ちている。英国経済はユーロ圏経済に比べて好調であると主張されている一方、為替レートが高すぎるとも言われている。為替レートが高すぎるとすれば、なぜ英国経済は好調なのか。その答えは、英国経済は二重構造だという点にあるだろう。地理的には南部と北部で経済が分断されており、産業面では不調な製造部門と、好調なサービス部門に分かれている。英国は、ERM（為替相場メカニズム）に参加していない点では、ユーロ参加の基準を満たしていないが、これについてはユーロ圏側が、政治的判断で免除する可能性が高いとみる。

5．ユーロ圏と英国の金融政策の違い

これは、中央銀行の政策モデルにおいて最

も顕著である。現在のところ、英中銀が採用しているインフレターゲットと政策決定過程をガラス張りにする政策は、ECBのアプローチより優れているとされている。また、「安定・成長協定（Stability and Growth Pact）」は財政政策としては問題が多く、英国の財政政策のほうが優れているとの見方もある。

6．各界の意見や見方

(1) 世論

英国人は一般的に、長い間EUに対して懐疑的な態度を取ってきた。保守党はこの問題に関して分裂し、労働党も影響を受けている。これは、英国人はEUを経済的なコストベネフィットの観点から見ようとするのに対し、他のEU加盟国は、EUを戦争回避の政治的手段とみていることも影響している。

世論はマスコミに左右されがちで、ユーロに関する十分な知識に基づいた真剣な議論は行われていない。政府がユーロ参加を勧告することになれば、即時に、超党派のキャンペーンが開始されるだろう。他方、イラク問題が入り込むと、世論が反EUに傾く可能性もある。

(2) 政府

政府内では、ヒューイト貿易産業相のようなユーロ参加賛成派、ストロー外相のような中立派、反対派に分かれる。ブラウン財務相は、10年前は賛成派だったが、最近では財務省の権限の削減を恐れてか懐疑的になっている。英中銀もユーロに懐疑的になっている。ブラウン財務相はそれでも、大筋ではユーロ参加賛成派と見られているが、政治的決定を下すことを望んでいない。政府内の議論でも、「5項目の経済テスト」が非常に重要である。

政府の立場はまた、イラク問題にも左右されるだろう。ブレア首相はイラク問題に関し世論と対立しており、「政治的資本」をイラク問題で使い切ってしまうためだ。

(3) 産業界

産業界の意見も大きく分かれている。製造業では全体的に、特に大企業を中心に、ユーロは安定性をもたらすとして参加に賛成である。輸出業者も同様だ。小売業を中心としたサービス業、中小企業は否定的である。

金融機関、特に主要銀行は、顧客も政府も怒らせたくないの、公には中立である。金融機関はユーロが導入されても、実質的に影響を受けないので、この件に関し意見を表明していない。

7. 英国のジレンマ

英国は、為替レートの安定性を除いては、EUのユーロ参加に関する「収れん基準」を簡単にクリアできる。英国経済は、その柔軟

性を生かして最近の不況を3回も回避しているので、今後いかなる課題にも対応できるだろう。

財務相の「5項目の経済テスト」は、すべて満たされるか、もしくは「玉虫色」の判断がなされるとみている。しかし、では経済的判断と同時に政治的判断が必要とされている。ユーロ参加に関する問題では、例えば為替レートや政策管理など新たな問題が表面化しており、新しいテストの採用の可能性も取り沙汰されている。そうなれば、政治的な判断の余地をさらに増やすことになるだろう。いずれにせよ、最も重要なテストは、世論と考えている。

(中里浩之、リオン・ディヴィイ)